

高円寺地域における新しい学校づくり懇談会
まとめ

杉並区教育委員会

目次

I 新しい学校づくりの方針

- 1 高円寺地域における義務教育9年間を通した一貫性のある教育校
- 2 新しい学校づくりの進め方
- 3 計画年次

II 計画と条件

- 1 現況
- 2 建築条件等

III 目指す学校像

IV 新しい学校づくりの基本的な考え方

V 校舎配置計画

- 1 校舎配置計画の考え方
- 2 配置計画の主な特徴

VI 平面計画

VII 教育方針

VIII 特別支援学級

IX 校名

X 通学区域・通学路

- 1 通学区域
- 2 通学路

XI 学園歌・学園章・メモリアル作品

- 1 学園歌
- 2 学園章
- 3 メモリアル作品

XII 標準服

<資料>

- ・高円寺地域における新しい学校づくり懇談会 主な議題
- ・高円寺地域における新しい学校づくり懇談会検討部会 主な議題
- ・高円寺地域における新しい学校づくり懇談会 委員
- ・高円寺小学校 高円寺中学校 平面図

I 新しい学校づくりの方針

1 高円寺地域における義務教育9年間を通した一貫性のある教育校

(1) 目的

杉並区教育ビジョン2012に掲げる「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」を目指し、高円寺地域の子どもたちにとってより望ましい教育環境を地域と共につくりあげていく。

(2) 目指す学校像

杉並第四小学校における就学前教育との連携、杉並第八小学校で行われてきた「リーダーシップを育む教育」の実践及び高円寺中学校が地域の協力を得て行っている職場体験学習などの教育の成果と伝統を礎にして、魅力ある学校をつくる。

(3) 新しい学校とする対象校

杉並第四小学校、杉並第八小学校及び高円寺中学校を対象とする。

2 新しい学校づくりの進め方

開校に至るまでの間、よりよい学校にしていくため、校長等、保護者、地域関係者等で構成する「高円寺地域における新しい学校づくり懇談会」を設置し、開校に向けた課題について協議の上、決定する。

3 計画年次

平成27年度	基本設計
平成27・28年度	実施設計
平成29～30年度	建設工事

II 計画与条件

1 現況（平成27年5月1日現在）

(1) 杉並第四小学校

- ①所在地 杉並区高円寺北二丁目14番13号3
- ②敷地面積 8,674 m²
- ③延床面積 5,470 m²（体育館を含む。）

(2) 杉並第八小学校

①所在地 杉並区高円寺南二丁目 40 番 24 号

②敷地面積 8,857 m²

③延床面積 4,984 m² (体育館を含む。)

(3) 高円寺中学校

①所在地 杉並区高円寺北一丁目 4 番 11 号

②敷地面積 11,294 m²

③延床面積 5,926 m² (体育館を含む。)

【杉並第四小学校】平成 27 年度児童数・学級数

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	合計
児童数	46	46	50	37	43	41	263
学級数	2	2	2	2	2	2	12

【杉並第八小学校】平成 27 年度児童数・学級数

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	合計
児童数	26	24	28	17	25	21	141
学級数	1	1	1	1	1	1	6

【高円寺中学校】平成 27 年度生徒数・学級数

	1 学年	2 学年	3 学年	合計
生徒数	35	29	35	99
学級数	1	1	1	3

2 建築条件等

(1) 所在地 杉並区高円寺北一丁目 4 番 11 号

(2) 敷地面積 11,294 m² (施設台帳)

(3) 計画地の状況について

本計画地は、用途地域が近隣商業地域（環状七号線より 30 メートル）及び第二種中高層住居専用地域となっており、他の学校（多くが第一種低層住居専用地域に立地している。）よりも、容積率や建物高さについて有利な条件となっています。

ただし、計画地周辺には住宅が多いため、建築計画及び工事においては、周辺環境への影響を十分に考慮する必要があります。

	①敷地中央部・東側	②敷地西側
用途地域	第二種中高層住居専用地域	近隣商業地域(環七沿い30m)
建ぺい率	70% (角地緩和利用可)	80%
容積率	200%	400%
防火地域	準防火地域	防火地域
高度地区	第2種高度地区	第3種高度地区
		最低限高度地区
日影規制	(一) 3時間—2時間 測定水平面4m	なし
その他	最低敷地 60 m ²	環七沿道地区

※第一種低層住居専用地域

1～2階建の低層住居専用の地域で、10mまたは12mの高さ制限がある。

※第二種中高層住居専用地域

主に中高層住宅のための地域。病院、大学などのほか、一定の店や事務所など必要な便利施設が建てられ、住居と大規模な店舗等の併存が認められた地域。

※近隣商業地域

近隣住宅地の住民のための店舗、事務所などの利便を増進する商店街等の地域。

Ⅲ 目指す学校像

目指す学校像として、みどりが多い、高円寺らしさが発揮できる、地域とつながるスペースがあるなど、様々な意見が挙がりました。

そこで、高円寺地域について、「こんな学校にしたい」、「こんな子どもに育てたい」、「高円寺地域の特徴」、「施設・機能」の4つのカテゴリーに分けて検討した上で、「高円寺らしさを生かした学校」と「教育活動を支える新校舎の施設・機能」を柱に、以下の6点にまとめました。

【高円寺らしさを生かした学校】

1 地域とつながる、地域力を生かす学校

- ・まちの活性化を図る人のつながりが強い高円寺。学校運営にその地域の力を生かしていく。

- ・まちの行事を生かし、子ども達が地域に出て、地域全体が“学校”となる教育活動を行う。
- ・職場体験などの体験活動を通して勉強以外の人間力をのばしていく。
- ・クラブ活動や部活動を地域と共に行い、人とのつながりを深めていく。

2 3校の優れた教育の特色を継承した学校

- ・環境教育
- ・就学前との連携教育
- ・リーダーシップ教育（特に小学校最高学年の6年生）
- ・地元密着型のキャリア教育（職場体験活動など）

3 新校の特色となる教育内容

- ・国際理解（英語力）
- ・コミュニケーション能力
- ・体力づくり（チームワーク，協調性，思いやりの醸成）
- ・理科教育（科学に触れられる教育環境）

【教育活動を支える新校舎の施設・機能】

4 地域コミュニティの場となる学校

- ・地域の人が集まれるコミュニティスペースや子どもと大人が触れあえるスペースを確保
- ・学校教育エリアと地域開放エリアのゾーン分け（メリハリをつける）
- ・防災拠点としての機能強化
- ・総合型地域スポーツクラブの拠点施設機能を整備

5 高円寺地域の特色ある学校施設機能

- ・未就学児の利用も想定した学童クラブの設置
- ・太鼓、琴、阿波踊りの練習が行える防音設備が整備された多目的室の設置
- ・小中の交流に限らず、未就学児や地域との交流が図れるランチスペースなどの確保
- ・校庭、体育館、屋上等について可能な限りスポーツができるスペースを確保

6 地域の子どもだれもが通え、居心地のよい学校

- ・支援が必要な子どもが通える特別支援学級やクールダウンスペースの設置
- ・だれもが通い、だれもが利用しやすい学校施設のユニバーサルデザイン化
- ・帰国子女を特別に支援でき、国際感覚が身に着く環境の整備
- ・自然に触れあえる季節感のある学校

IV 新しい学校づくりの基本的な考え方

基本設計に向けたコンセプトを固めるための検討素材として、高円寺地域における新しい学校づくりの基本的な考え方を検討しました。新校は子どもたちの学びの場であることを最優先に、地域の力を学校運営に生かすことや地域防災の拠点であるといった視点を加えて考え、以下のとおりまとめました。

1 新校の教育方針

- ・子どもたちの学習・生活の場において、義務教育9年間の学びの系統性・連続性を重視した指導を行うことにより、基礎学力の定着や学習習慣の確立とともに、豊かな感性を磨き、たくましく生きる力と強い体を育む。
- ・高円寺地域の特性を生かし、地域全体を「学び舎」と捉え、家庭・地域・学校が子どもたちの学びと成長について目標を共有し、職場体験活動やボランティア活動など、豊かな成長の機会を確保しながら、社会とのかかわる力を育む。
- ・これまで培ってきた就学前教育施設との連携、リーダーシップを育む教育、地域密着型のキャリア教育など、3校の優れた教育の特色を継承・発展させるとともに、教科の特性を生かした言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を養い、社会の変化に対応していく力を育む。

2 豊かな人間性を育む学習環境等の整備充実

- ・杉並らしいみどり豊かな、自然に触れあえ、季節感を感じられる教育環境を確保する。
- ・運動習慣の確立と体力・運動能力の向上を図るため、校庭、体育館、プール、屋上運動スペースなど、9学年の子どもたちが可能な限り、体を鍛え、スポーツができるスペースを確保する。
- ・特色ある教育活動の展開や習熟度別・少人数指導などの個に応じたきめ細かい指導の充実を図るための教室・設備を整備する。
- ・子どもたちの交流、未就学児や地域の方との交流の場となるランチスペースを設置する。
- ・特別な支援を必要とする児童・生徒に対し、小学校から中学校まで一貫した支援が行える特別支援学級を設置するとともに、個々の教育的ニーズに対応した個別支援が可能となる特別支援教室を設置する。
- ・子どもたちが和太鼓、琴、阿波踊りの練習が行える防音設備が整備された多目的室を設置する。

3 安全性が高く、地域防災の拠点となる学校

- ・学校専用部分と地域開放の領域に配慮した施設配置や見通しが良い設計、防犯設備などにより、児童・生徒の安全を確保した学校とする。
- ・児童の放課後の安全と良好な育成環境を確保した学童クラブ及び放課後等居場所事業を実施するための必要なスペースを設置する。
- ・地震等の非常災害時に、地域の避難場所、復旧拠点として、地域のライフラインを担う十分な防災機能を備えた学校とする。
- ・災害時には地域の高齢者等も利用することも配慮し、だれもが利用しやすいユニバーサルデザインの校舎とする。

4 地域力を生かし、地域と共に歩む学校

- ・保護者や地域住民が学校運営に参画し、地域と一体となり子どもを育てていくために、「学校支援本部」や「学校運営協議会」など、学校を支える人たちの活動スペースを設置する。
- ・高円寺地域が持つ地域力（教育力）を学校運営に最大限生かすとともに、家庭・地域の教育力も向上させていくために、多世代が触れ合い、互いに学び、成長する場として活用できる地域コミュニティスペースを設置する。

V 校舎配置計画

(1) 校舎配置計画の考え方

教育環境の充実、周辺への配慮と影響、工事期間中の既存施設活用などの観点から検討を行い、北側の日影規制、効率的な容積、地形の良い校庭面積の確保等の点から、敷地南側に校舎を配置することとしました。

なお、それぞれの校舎配置計画案は、次ページのとおりです。

(2) 配置計画の主な特徴

- ・校庭が最も広く、整形で確保できる。
- ・多様な平面計画が可能。
- ・屋上部にまとまった面積の確保が可能。
- ・近隣への日影の影響が最も少ない。
- ・仮設校舎が不要であり、工期短縮とコスト縮減が可能

配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	<p>既存校舎</p> <p>建築面積 約 4,006㎡ 延床面積 約 5,926㎡ 校庭面積 約 5,300㎡</p>	<p>A. 南側配置案 (仮設校舎なし)</p> <p>建築面積 約 4,000㎡ 屋上活動エリア 約 990㎡ 延床面積 約 16,320㎡ 校庭面積 約 4,800㎡</p>	<p>A-1. 南側配置案 (仮設校舎なし)</p> <p>建築面積 約 4,160㎡ 屋上活動エリア 約 850㎡ 延床面積 約 16,200㎡ 外部観覧エリア 約 500㎡ 校庭面積 約 4,800㎡</p>
配置イメージ	<p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>公道 (4.0m) 北通用門</p> <p>既存体育館</p> <p>既存校舎</p> <p>中学昇降口</p> <p>150mトラック 直線80m走路</p> <p>既存プール</p> <p>西通用門 (正門)</p> <p>東通用門</p> <p>環状7号線</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p>	<p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>公道 (4.0m) 北通用門</p> <p>150mトラック</p> <p>仮備い</p> <p>小・中学校 昇降口</p> <p>新設正門 (工事門)</p> <p>新設東通用門</p> <p>西通用門</p> <p>環状7号線</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p> <p>6階 5階 4階 3階 2階</p> <p>校庭エリア 改築校舎 既存校舎 6m幅員・2項道路幅員確保の為に必要なエリア</p>	<p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>公道 (4.0m) 北通用門</p> <p>150mトラック</p> <p>仮備い</p> <p>小・中学校 昇降口</p> <p>新設正門 (工事門)</p> <p>新設東通用門</p> <p>西通用門</p> <p>環状7号線</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p> <p>7階 6階 5階 4階 3階 2階</p> <p>校庭エリア 改築校舎 既存校舎 6m幅員・2項道路幅員確保の為に必要なエリア</p>
学習・生活・交流		<ul style="list-style-type: none"> ・外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 ・中庭に面した場合でも、中庭からの採光と通風確保が可能。 ・回遊性のある平面計画が可能。移動動線内を交流空間として計画することで、児童生徒の交流を促す計画が可能。 ・最も校庭面積を広く確保出来る配置計画。 ・校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 ・野球等のレイアウトがしやすい整形な校庭。 ・150mトラック、直線80m走路の計画が可能。 ・児童生徒の登下校の動線は、新設の正門と東門の利用を想定。 ・給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 ・屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 ・屋上活動エリアは約990㎡確保可能。 ・既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・同左 ・同左 ・同左 ・屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 ・屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 ・屋上観覧エリアの確保が可能な計画。 ・同左
環境周辺		<ul style="list-style-type: none"> ・日影については、最も近隣への影響が少ない計画。 ・南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 ・東側の住宅地への日影の配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日影については、最も近隣への影響が少ない計画。 ・南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 ・東側の住宅地への日影の配慮が必要。 ・西側の住宅地のプライバシーの配慮と日影の配慮が必要。
工事関連		<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト縮減が可能。 ・比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 ・既存校舎の解体工事エリアも確保しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左 ・同左

配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	B. 南東側配置案 (仮設校舎なし)	B-1. 南西側配置案 (仮設校舎なし)	建築面積 約 4,050㎡ 屋上活動エリア 約 900㎡ 延床面積 約 16,000㎡ 校庭面積 ①約 3,850㎡ ②約 870㎡ 合計 約 4,720㎡	建築面積 約 4,000㎡ 屋上活動エリア 約 900㎡ 延床面積 約 17,000㎡ 校庭面積 ①約 3,600㎡ ②約 400㎡ 合計 約 4,000㎡																																																											
配置イメージ																																																															
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="192 1186 252 1270">学習・生活・交流</td> <td data-bbox="252 1186 474 1270">普通教室 (配置・採光・通風)</td> <td data-bbox="504 1186 1276 1270"> <ul style="list-style-type: none"> 南北に長い校舎となるため、外部に面した東、西側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。 </td> <td data-bbox="1291 1186 1528 1270">△</td> <td data-bbox="1543 1186 2062 1270"> <ul style="list-style-type: none"> 外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 面積は小さいが、中庭からの採光と通風確保が可能。 </td> <td data-bbox="2077 1186 2315 1270">○</td> <td data-bbox="2329 1186 2819 1270"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1270 252 1354"></td> <td data-bbox="252 1270 474 1354">教室間の動線 (回遊性・距離)</td> <td data-bbox="504 1270 1276 1354"> <ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 </td> <td data-bbox="1291 1270 1528 1354">○</td> <td data-bbox="1543 1270 2062 1354"> <ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 </td> <td data-bbox="2077 1270 2315 1354">○</td> <td data-bbox="2329 1270 2819 1354"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1354 252 1438"></td> <td data-bbox="252 1354 474 1438">校庭 (日影・広さ・レイアウト)</td> <td data-bbox="504 1354 1276 1438"> <ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 </td> <td data-bbox="1291 1354 1528 1438">△</td> <td data-bbox="1543 1354 2062 1438"> <ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 </td> <td data-bbox="2077 1354 2315 1438">△</td> <td data-bbox="2329 1354 2819 1438"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1438 252 1522"></td> <td data-bbox="252 1438 474 1522">アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離)</td> <td data-bbox="504 1438 1276 1522"> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 </td> <td data-bbox="1291 1438 1528 1522">◎</td> <td data-bbox="1543 1438 2062 1522"> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 </td> <td data-bbox="2077 1438 2315 1522">◎</td> <td data-bbox="2329 1438 2819 1522"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1522 252 1606"></td> <td data-bbox="252 1522 474 1606">屋上活動エリアの確保 (プール・広さ)</td> <td data-bbox="504 1522 1276 1606"> <ul style="list-style-type: none"> 法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 屋上活動エリアは約900㎡確保可能。 </td> <td data-bbox="1291 1522 1528 1606">○</td> <td data-bbox="1543 1522 2062 1606"> <ul style="list-style-type: none"> 屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 </td> <td data-bbox="2077 1522 2315 1606">◎</td> <td data-bbox="2329 1522 2819 1606"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1606 252 1690"></td> <td data-bbox="252 1606 474 1690">仮設校舎の有無</td> <td data-bbox="504 1606 1276 1690"> <ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 </td> <td data-bbox="1291 1606 1528 1690">○</td> <td data-bbox="1543 1606 2062 1690"> <ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 </td> <td data-bbox="2077 1606 2315 1690">○</td> <td data-bbox="2329 1606 2819 1690"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1690 252 1774">環境周辺</td> <td data-bbox="252 1690 474 1774">敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線)</td> <td data-bbox="504 1690 1276 1774"> <ul style="list-style-type: none"> 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 校舎が南北に長い。東側の住宅地への日影や建物の圧迫感等を影響範囲が広く配慮が必要。 </td> <td data-bbox="1291 1690 1528 1774">○</td> <td data-bbox="1543 1690 2062 1774"> <ul style="list-style-type: none"> 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 東側の住宅地への日影の配慮が必要。 </td> <td data-bbox="2077 1690 2315 1774">○</td> <td data-bbox="2329 1690 2819 1774"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1774 252 1858">工事関連</td> <td data-bbox="252 1774 474 1858">工期とコスト</td> <td data-bbox="504 1774 1276 1858"> <ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 </td> <td data-bbox="1291 1774 1528 1858">◎</td> <td data-bbox="1543 1774 2062 1858"> <ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 </td> <td data-bbox="2077 1774 2315 1858">◎</td> <td data-bbox="2329 1774 2819 1858"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="192 1858 252 1957"></td> <td data-bbox="252 1858 474 1957">工事エリアと工事車輛動線</td> <td data-bbox="504 1858 1276 1957"> <ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 </td> <td data-bbox="1291 1858 1528 1957">○</td> <td data-bbox="1543 1858 2062 1957"> <ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 </td> <td data-bbox="2077 1858 2315 1957">○</td> <td data-bbox="2329 1858 2819 1957"></td> </tr> </table>	学習・生活・交流	普通教室 (配置・採光・通風)	<ul style="list-style-type: none"> 南北に長い校舎となるため、外部に面した東、西側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 面積は小さいが、中庭からの採光と通風確保が可能。 	○			教室間の動線 (回遊性・距離)	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○			校庭 (日影・広さ・レイアウト)	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△			アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎			屋上活動エリアの確保 (プール・広さ)	<ul style="list-style-type: none"> 法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 屋上活動エリアは約900㎡確保可能。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 	◎			仮設校舎の有無	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○		環境周辺	敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線)	<ul style="list-style-type: none"> 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 校舎が南北に長い。東側の住宅地への日影や建物の圧迫感等を影響範囲が広く配慮が必要。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 東側の住宅地への日影の配慮が必要。 	○		工事関連	工期とコスト	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎			工事エリアと工事車輛動線	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○	
学習・生活・交流	普通教室 (配置・採光・通風)	<ul style="list-style-type: none"> 南北に長い校舎となるため、外部に面した東、西側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 面積は小さいが、中庭からの採光と通風確保が可能。 	○																																																										
	教室間の動線 (回遊性・距離)	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	○																																																										
	校庭 (日影・広さ・レイアウト)	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	△																																																										
	アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	◎																																																										
	屋上活動エリアの確保 (プール・広さ)	<ul style="list-style-type: none"> 法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 屋上活動エリアは約900㎡確保可能。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 屋上活動エリアは約850㎡確保可能。 	◎																																																										
	仮設校舎の有無	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	○																																																										
環境周辺	敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線)	<ul style="list-style-type: none"> 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 校舎が南北に長い。東側の住宅地への日影や建物の圧迫感等を影響範囲が広く配慮が必要。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 東側の住宅地への日影の配慮が必要。 	○																																																										
工事関連	工期とコスト	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト削減が可能。 	◎																																																										
	工事エリアと工事車輛動線	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	○																																																										

配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	C. 北側配置案 (仮設校舎あり)	D. 北西側配置案 (仮設校舎あり)	
配置イメージ			
学習・生活・交流	<p>普通教室 (配置・採光・通風) ○</p> <p>教室間の動線 (回遊性・距離) ○</p> <p>校庭 (日影・広さ・レイアウト) ○</p> <p>アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離) ○</p> <p>屋上活動エリアの確保 (プール・広さ) ○</p> <p>仮設校舎の有無 ○</p>	<p>普通教室 (配置・採光・通風) △</p> <p>教室間の動線 (回遊性・距離) △</p> <p>校庭 (日影・広さ・レイアウト) ×</p> <p>アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離) △</p> <p>屋上活動エリアの確保 (プール・広さ) ○</p> <p>仮設校舎の有無 ×</p>	
環境周辺	<p>敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線) △</p>	<p>敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線) △</p>	
工事関連	<p>工期とコスト △</p> <p>工事エリアと工事車輛動線 △</p>	<p>工期とコスト △</p> <p>工事エリアと工事車輛動線 ×</p>	

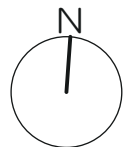
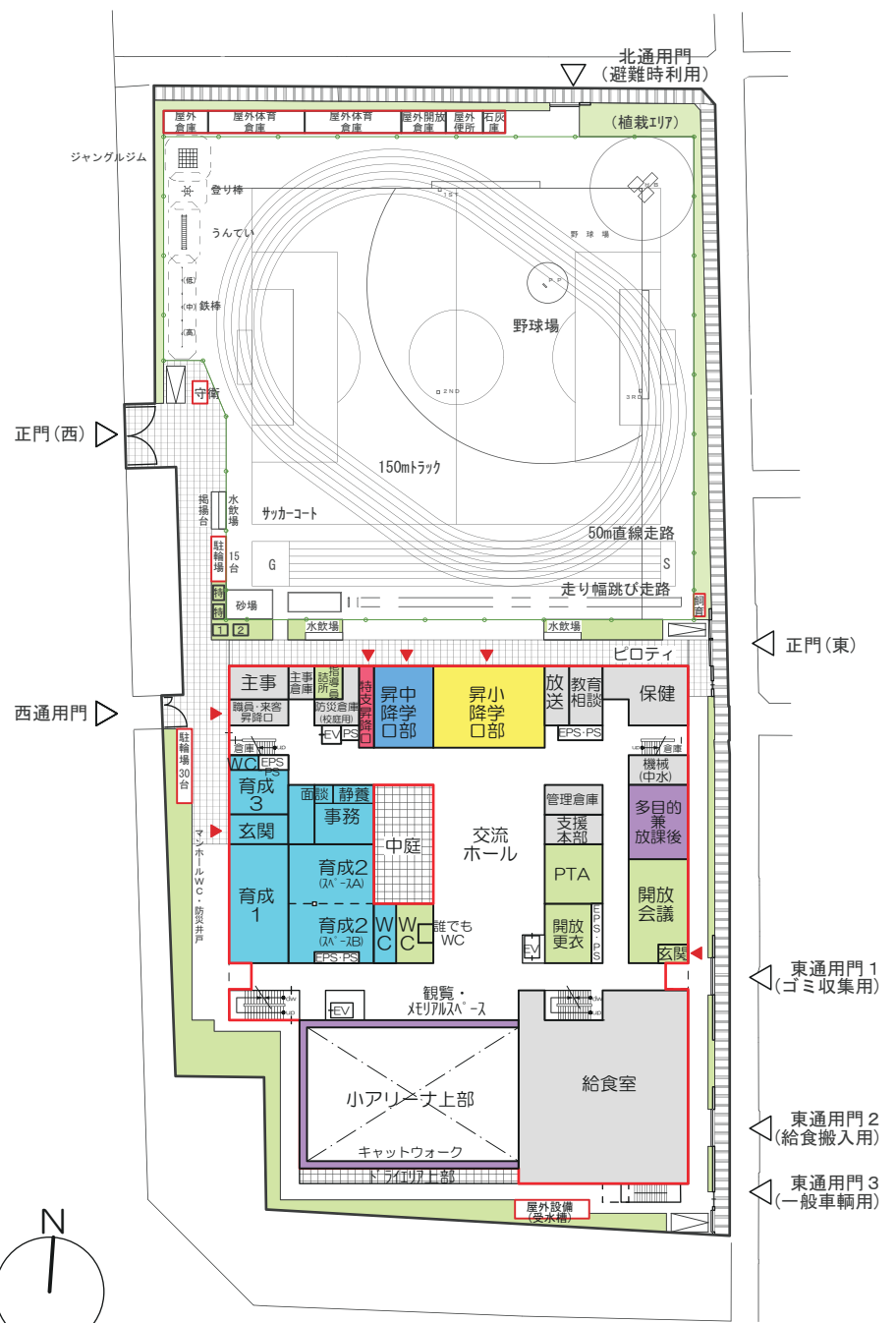
VI 平面計画

「高円寺地域における新しい学校づくりの基本的な考え方」を具体化することを念頭に平面計画について検討し、懇談会委員等の意見を取り入れながら修正を加えました。

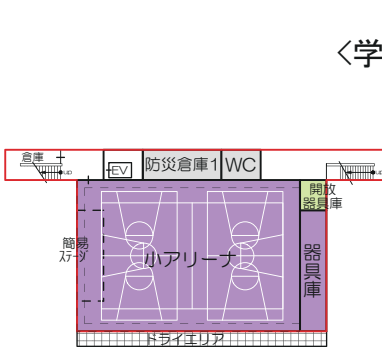
主な特徴

- ・ 1階には交流ホールを設け、地域の方や保護者との相互連携ができる計画にしています。学童クラブも1階に設けることで、単独利用しやすいようにしています。
- ・ 2階にはグラウンド側に職員室等の管理諸室を配置しています。教職員の近くに小学校1・2年生の教室と特別支援学級を設置しています。
- ・ 3階には小学生教室のほか多目的・ランチルームと図書・ラーニングセンターを設け、小中学生の交流を図ります。また、図工室や音楽室等の芸術系諸室を集め、開放しやすい計画としています。
- ・ 4階は主に中学校3学年の教室を配置しています。また、大アリーナを設けています。
- ・ 5階には中学校の特別教室を配置しているほか、屋上にテラスを作り、屋上緑化が行えるようにしています。
- ・ 6階には屋内プールを設置しています。日影の影響が少ない西側を高くし、東側には屋上緑化を設けています。
- ・ 屋上には、屋上運動スペースを設けています。

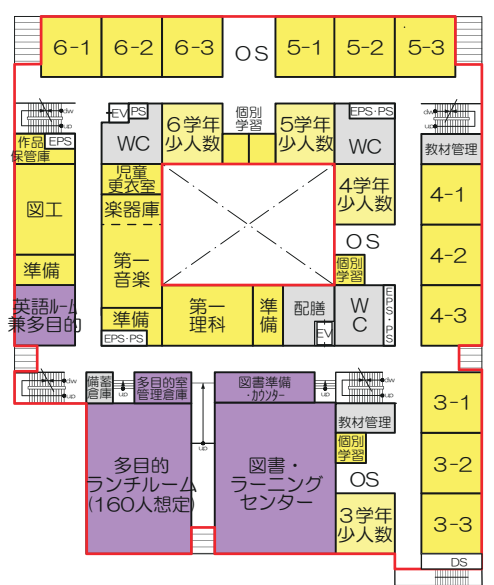
■改築校舎 平面計画



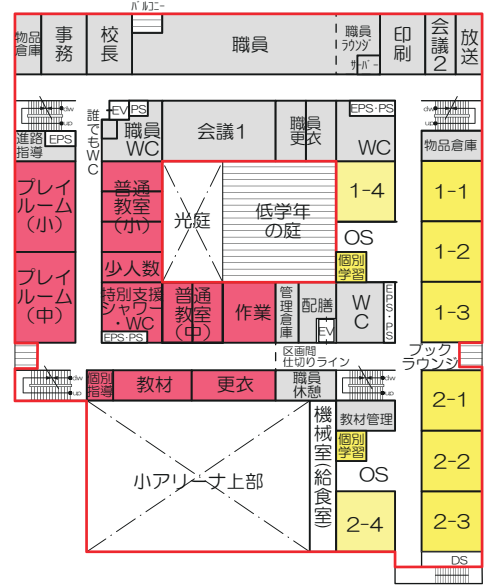
- 小学部
- 中学部
- 共有教室
- 管理室・その他諸室
- 特別支援
- 学童クラブ
- 開放諸室



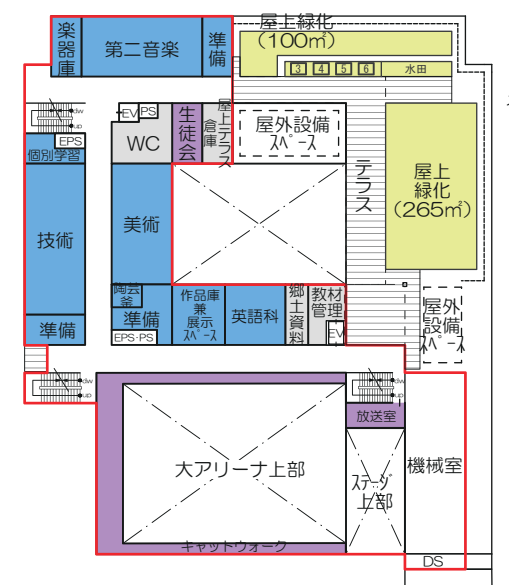
B 1 F



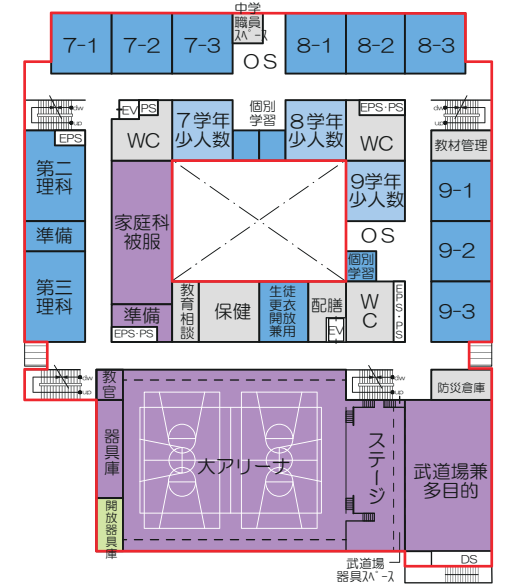
3 F
〈小学生ゾーン〉



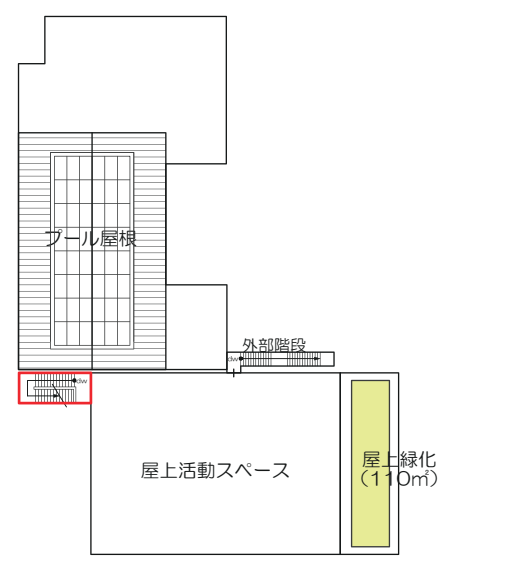
2 F
〈小学生+特別支援ゾーン〉



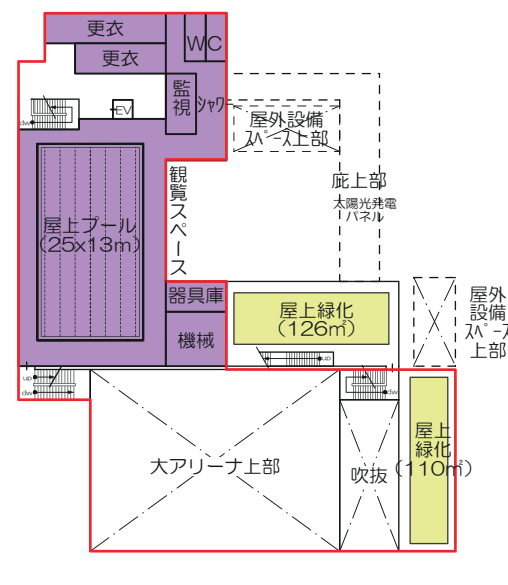
5 F
〈中学生ゾーン〉



4 F
〈中学生ゾーン〉



7 F
〈共用ゾーン〉



6 F
〈共用ゾーン〉

Ⅶ 教育方針

「杉並区教育ビジョン2012」で目指す「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」の実現に向けて、9年間の学びの系統性・連続性を重視した質の高い教育活動を提供する小中一貫教育校を目指して進むべく、「学び舎 高円寺」をキャッチフレーズに3つの柱を立てて検討を加え、以下のとおり策定しました。

ー新しい学校のコンセプトー

「杉並区教育ビジョン2012」を基とし、施設一体型小中一貫教育校ならではの教育活動を行っていくことで「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」の一端を担っていく。また、9年間の学びの系統性・連続性を重視した質の高い教育活動を提供することで、児童・生徒の力を最大限引き出し、保護者・地域の期待に応えていく。

ーキャッチフレーズー

学び舎 高円寺

ー教育方針ー

- (1) 義務教育9年間の学びの系統性・連続性を重視した指導を行うことにより、学習習慣を確立させ、基礎学力を定着させるとともに、自立した一人の人間として他者と共に生きていくための、知性、感性、道徳心や体力を育む。
- (2) 家庭・地域・学校が児童・生徒の学びと成長について目標を共有し、職場体験活動やボランティア活動など、高円寺地域の特性を生かした豊かな成長の機会を確保しながら、社会とかかわる力を育む。
- (3) 新しい時代や社会の変化に対応し、国際社会で活躍できる人材を育成するために、高円寺地域の力を活用し、一人ひとりに思考力、判断力、表現力などの資質能力を育む。

ー指導の重点ー

〈学び舎 高円寺はこんな学校です〉

主体的・対話的な学びを大切にしていきます

一人ひとりの児童・生徒が、自ら考え、みんなと共に語り、考え、共に学びを深めていく、主体的・対話的な学びを重視する学校です。

まちのコミュニティの核となる学校を目指します

まちの人々と共に、これからの学校やまちのあり方を考えていきます。そして、学校が子どもたちやまちの人々の交流・憩いの場となるように、みんなでこの学び舎を育てていきます。

地域の就学前施設と連携し幼児期の学びを生かしていきます

地域の就学前施設との連携を継続・発展させ、幼児期の体験や学びを小中一貫教育につなげることで、9年間の連続した学びをより豊かなものにしていきます。

互いの人格を尊重し、共生社会の基礎づくりを目指します

誰もが自分らしく幸福に生きる社会の実現を目指すために、人権教育を推進し、子どもたちに人権尊重の精神を培います。

すべての教職員は「チーム高円寺」の意識で学校づくりに取り組みます

教職員もまちの一員として、まちの学校づくりにチームとして取り組んでいくとともに、学校だけでなく地域全体も一体となって教育を行っていく学校を作っていきます。

Ⅷ 特別支援学級

特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、義務教育9年間を通した一貫性のある教育を行うため、「知的障害特別支援学級」(※1)を設置することとしました。

(※1)「知的障害特別支援学級」は、知的発達の遅れや意思疎通に軽度の困難がある児童・生徒を対象として、一人ひとりの課題等に応じた教科の学習及び自立支援のための教育活動などを行います。

【「知的障害特別支援学級」とする主な理由】

- (1) 区内初の施設一体型小中一貫教育校である杉並和泉学園（新泉和泉小学校・和泉中学校）において、小中9年間を通した一貫性のある知的障害特別支援学級（小学校・中学校）の実績があること。
- (2) 高円寺地域における知的障害特別支援学級（中学校）について増設の必要性が高いこと。
- (3) 「情緒障害通級指導学級」(※2)は、各小学校内に特別支援教室を新設して専門教員が巡回指導する方式で継承・充実を図ることとし、平成28年度から3年間で段階的に「特別支援教室」を設置する計画であること。

(※2)「情緒障害通級指導」は、知的発達の遅れはなく、対人関係等に困難を抱える児童・生徒を対象として、一人ひとりの課題等に応じた教科の学習及び自立支援のための教育活動などを行います。

Ⅷ 校名

杉並和泉学園（新泉和泉小学校・和泉中学校）を参考に、小中学校の名称のほか、小中一貫教育校としての名称（学園名）をつけることとしました。

高円寺地域の学校であるため「高円寺」をつけることは委員共通の考えであり、更に「杉並」をつけるか、小中一貫教育校としての名称を「学園」にするか「学舎」にするか等について検討を加え、小学校・中学校・小中一貫教育校の名称と組合せについてアンケートを行いました。

アンケート結果（有効数 336 件。平成 28 年 11～12 月実施）

No	学園名	小学校名	中学校名	有効応募数
①	高円寺学園	高円寺小学校	高円寺中学校	170 件（51%）
②	高円寺学園	杉並高円寺小学校	杉並高円寺中学校	46 件（14%）
③	高円寺学園	高円寺学園小学校	高円寺学園中学校	54 件（16%）
④	高円寺学舎	高円寺小学校	高円寺中学校	18 件（5%）
⑤	高円寺学舎	杉並高円寺小学校	杉並高円寺中学校	11 件（3%）
⑥	高円寺学舎	高円寺学舎小学校	高円寺学舎中学校	9 件（3%）
⑦	その他（自由意見）			28 件（8%）

アンケート結果を踏まえ、シンプルで覚えやすく、地域の学校であることが明確となる「高円寺学園」、「高円寺小学校」、「高円寺中学校」を懇談会としての名称案とすることとしました。

※その後、条例及び教育委員会規則の改正（令和元年）をもって、これらの名称を正式に決定しました。

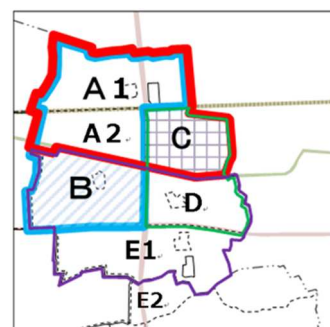
Ⅸ 通学区域・通学路

（1）通学区域

「杉並第四小学校・杉並第八小学校」の通学区域と「高円寺中学校」の通学区域が異なるため、義務教育 9 年間を通した一貫性のある教育を行う学校であることを念頭に、小中の通学区域をどのように設定するか検討しました。これら 3 校の通学区域の変更を考えるに当たっては、近隣の小中学校や町会との連携についても配慮しました。

その結果、高円寺学園の通学区域を以下のとおり設定することとしました。

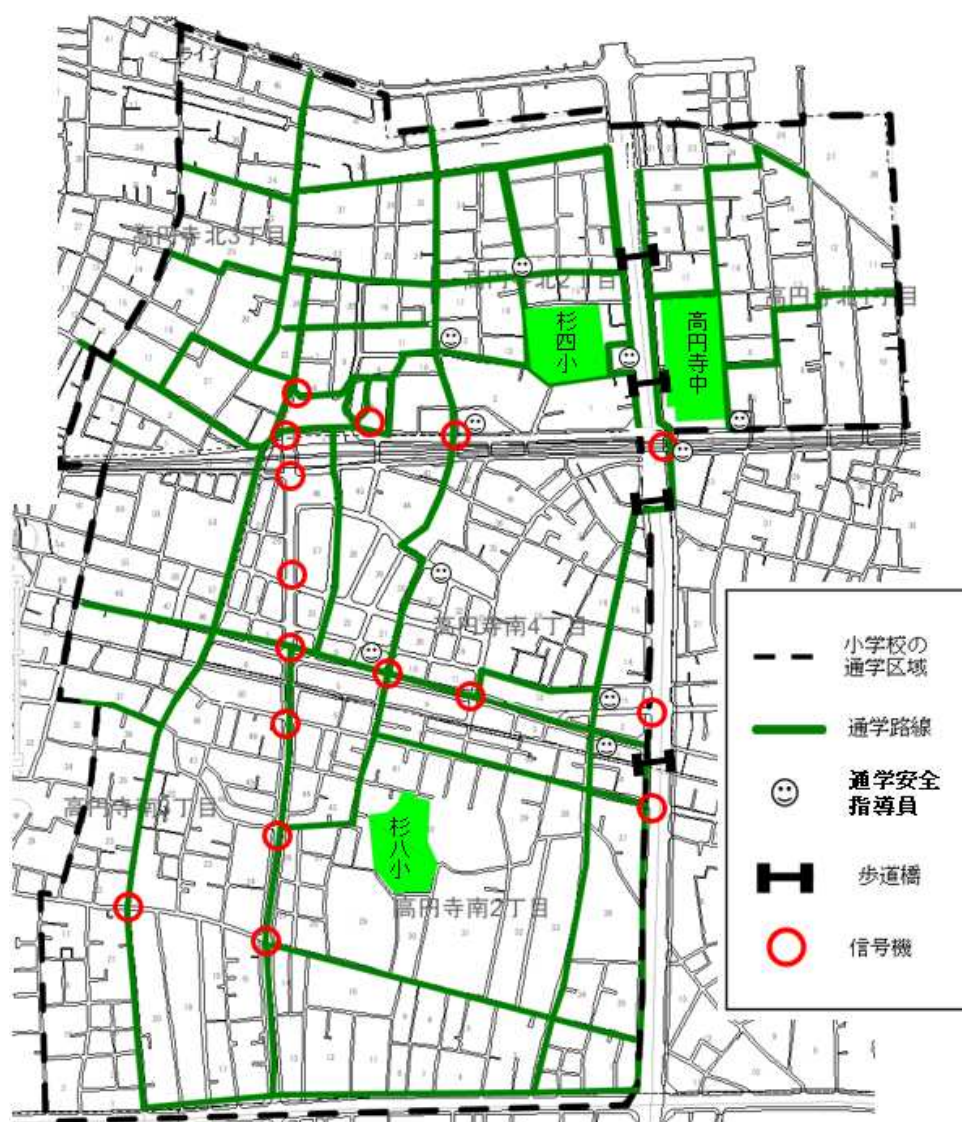
地域	小学校		中学校	
	現	新	現	新
A 1	杉並第四	高円寺学園	高円寺	高円寺学園
A 2	杉並第八	高円寺学園	高円寺	高円寺学園
B	杉並第八	高円寺学園	高南	高円寺学園
C	杉並第三	杉並第三	高円寺	高南



(2) 通学路

通学路の指定に当たっては、杉並警察及び杉並土木事務所と共同して児童の登下校時に実地調査を行い、交通量や暗がり等を調査しました。

その結果を受けて、高円寺学園の通学路を以下のとおり設定することとしました。



XI 学園歌・学園章・メモリアル作品

校歌・校章は、小学校・中学校ごとではなく、小中一貫教育校として一つの「学園歌・学園章」を作ることとしました。児童・生徒から制作のイメージを募集した上で、制作者を選定しました。

また、メモリアル作品については検討部会を設置し、高円寺学園のメモリアルスペースに設置する物の選択等を行いました。

(1) 学園歌

小学校1年生から中学校3年生までが歌える歌として、「あなたへ―旅立ちに寄せるメッセージ」等の合唱作品の制作実績を持つ桃井第一小学校の音楽教諭である筒井雅子氏に作詞・作曲を依頼しました。

学び舎高円寺

作詞 作曲 筒井雅子

♩ = 120 くらい

mf

語りかけるように

mp

1. は は なる だ い ち に い だ か れ て
2. ふ る さ と の あ い に い つ つ ま れ て

mp

ち い さ な 芽 は おおぞら を 一 め ざ す
わ た し た 一 ち は み ら い を め ざ す

ひ か り あ び あ め に う た れ て
ひ か り あ び あ め も か て と し

た く ま し く そ だ つ わ か き い の ち た ち め
こ こ ろ ゆ た か に そ だ つ か が や く い の ち た ち み

mf

ふ き の は る き こ こ ろ お ど る な つ } 1. と
の り の あ き に ん た い を し る ふ ゆ

mp

き の な が れ に い ろ ど ら れ な が ら { 1. た す
2. し ん

f 思いをこめて

け あ い た か め あ い と も に 一 の び て ゆ こ う こ こ
じ あ い ま な び あ い と も に あ ゆ ん で ゆ こ う こ こ

mf

杉並区立小中一貫教育校高円寺学園 学園歌
学び舎高円寺

作詞 作曲 筒井雅子

1.

1. わた したちの ふる さと こう えん-じ で

2.

2. わた したちの まな びや こう えん-じ で ひか

り わき ひか り あれ まなびや こう えん じ

8bass

1. 母なる大地にいだかれて

小さな芽は大空をめざす

光浴び 雨に打たれて

遅しく育つ 若きいのちたち

芽吹きの春 心躍る夏

季節の流れに彩られながら

助け合い 高め合い

ともに伸びてゆこう

ここ 私たちのふるさと 高円寺で

2. ふるさとの愛につつまれて

私たちは未来をめざす

光浴び 雨も糧とし

心豊かに育つ 輝くいのちたち

実りの秋 忍耐を知る冬

季節の流れに彩られながら

信じ合い 学び合い

ともに歩んでゆこう

ここ 私たちの学び舎 高円寺で

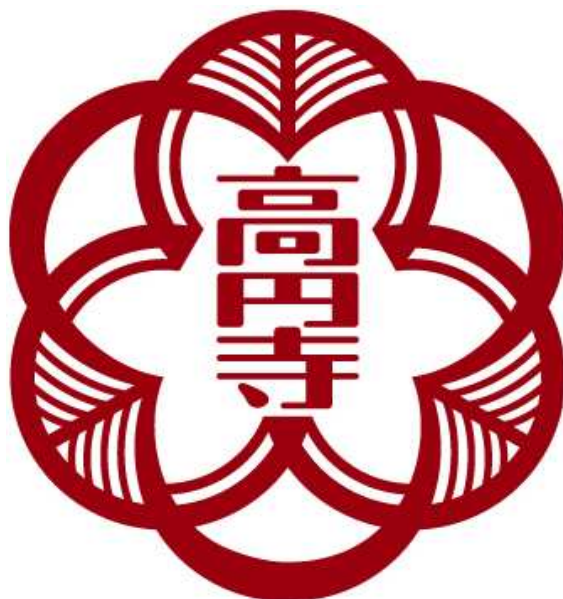
「光湧き」 光あれ

学び舎高円寺

(2) 学園章

杉並芸術会館（座・高円寺）のロゴを担当した女子美術大学短期大学部造形学科デザインコースの佐藤真澄教授に制作を依頼しました。

佐藤教授による複数の図案について、児童・生徒や近隣就学前教育施設に通う子どもの保護者等からアンケートを取り、その結果を踏まえて学園章を決定しました。



二重のラインと杉の木で表現された3つの円は、杉並第四小学校、杉並第八小学校、高円寺中学校が、それぞれ培ってきたものを大切に持ち寄り、一緒に力を合わせて育てていくさまを表しています。強くしっかり繋がった3つの円弧は、「学校」、「家庭」、「地域」を表し、皆が一丸となって花を咲かせるように、すばらしい学び舎を作り上げていく姿を表現しています。

(3) メモリアル作品

検討部会を設置し、3校のメモリアルについて検討しました。

高円寺学園の校庭整備に伴い伐採する必要がある高円寺中のクスノキ（樹齢約70年）を利用して3校のメモリアル作品を制作することとしました。制作を女子美術大学短期大学部の林佐和子助教に依頼し、3校の児童・生徒が団らんでできるベンチを制作しました。なお、伐採したクスノキは種を採取し、一定の大きさに育った後に、高円寺学園に植えることとしています。

また、3校の校旗・校名板・沿革等は、新校のメモリアルスペースに展示するほか、旧校舎等の写真をスライドショーにして流すこととしました。



メモリアル作品「時を繋ぐ物語」

XII 標準服

検討部会を設置し、小学校・中学校それぞれの標準服導入の有無とタイプ（詰襟・セーラー服タイプ、ブレザータイプ）について、3校及び地域の保育園・子供園等にアンケートを取ったところ、小学校の標準服は「なし」、中学校のみ「ブレザータイプ」の標準服を導入するという回答が最も多くなりました。

これを踏まえて検討部会及び懇談会で検討したところ、長年親しんできた詰襟・セーラー服タイプの標準服がなくなることには複雑な思いもあるが、ブレザータイプは、温度調節がしやすいだけでなく、性別にとらわれることなく自由にスラックスを選べるなど、様々な生徒が自分に合ったものを着用しやすいという利点があることから、ブレザータイプを導入することとしました。

なお、スカートとスラックスのほか、ネクタイとリボンについても、どちらを着用するかを自由に選べることにしています。

ブレザータイプのデザインについては、検討部会の中で複数の案を選定した上で再度アンケートを取り、以下のデザインに決定しました。

